

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		05 04 16	中期総合計画主要施策番号		3 - 01	担当課	部・課	衛生部健康づくり支援課		
事業名		難病対策事業					内線	2640		
							E-mail	kenko@pref.nagano.jp		
事業の概要等	事業の目的	・難病患者に対する総合的な相談・支援や地域における受入病院の確保を図る。 ・在宅療養上の適切な支援を行うことにより、安定した療養生活の確保と生活の質の向上を図る。								
	事業の必要性	【現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)】 ・難病患者数は増加傾向にあり、そのニーズは特定疾患医療費給付制度による経済的支援のみでなく、多様化している。 ・県内のどの地域でも、安心して専門医療を受けることができるよう、また必要時に入院先が確保できるよう、各種関係機関の連携が求められている。 【原因分析(ギャップが発生している原因は何か)】 ・難病は123疾患(H20現在)あり、その疾患ごとにまたその疾患の進行度合いによって療養生活上必要とされる支援内容が異なる。 ・地域によっては難病医療の専門医による診療を受けることが困難な場合や入院先が確保できない場合がある。 【課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)】 ・難病患者の多様化しているニーズに応えられるよう、難病相談・支援センターの機能を強化していく必要がある。 ・県内のどの地域でも、専門医による診療や必要時に入院先が確保できるよう、各種関係機関の連携により、難病医療ネットワークを構築していく必要がある。								
		事業内容	・難病相談・支援センターの設置(運営は信州大学附属病院に業務委託) ・神経難病医療連絡協議会の開催 ・保健所における相談会や患者・家族交流会の開催 ・難病医療協力病院の設備(人工呼吸器)整備に係る補助(国・県・病院1/3)							
			実施期間	H10 ~	根拠法令等	難病特別対策推進事業実施要綱(国)、難病相談・支援センター事業実施要綱他(県)				
	成果と達成状況	事業の目指す成果	達成度(期待どおり)の判定基準(H20)		達成状況		評価			
	・難病患者からの多様な相談に答えることができるよう難病相談・支援センターを中心とした相談支援体制を構築する。	・難病相談・支援センターにおいて、医療分野以外の相談体制を強化するため、就労専門の相談員を配置する。 ・神経難病医療連絡協議会を開催し、協力病院等との連携を推進する。		・就労専門の相談員を配置し、相談に対し適切に対応した。 ・相談件数は1973件に増加し、就労に関する相談も年間196件とH19に比べほぼ倍増した。 ・神経難病医療連絡協議会を3月に開催し、効果的な事業運営等について議論した。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下				
事業コスト	区 分	単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要				
	最終予算額 (A)	千円	11,568	14,230	12,559	国庫・県庫	国庫			
	決 算 額 (B)	千円	11,568	14,230		実施方法	直接・委託			
	B(H21はA)のうち一般財源	千円	5,787	7,115	6,282	歳出節別	委託料:9,581			
	概 算 人件費	人	3.50	3.50	3.50	内訳等	補助金:1,590 需用費:1,074 役務費:823			
	概算事業費 (B(H21はA)+C)	千円	36,558	39,252	37,581	(単位:千円)	報償費:1,162			
事業実績	内 容	単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績				
	難病相談延べ件数(相談センター分)	件	821	1,973	2,500	H19年6月に開設した難病相談・支援センターは、地域で生活する患者の相談に関する県内の拠点となっている。なお、センター以外にも、難病患者連絡協議会が行う相談(県委託)、保健所で保健師が対応する相談等がある。				
	保健所主催の医療相談会	回	64	61	60					
事業の課題	区 分	判 定 ・ 説 明								
	事業のニーズの変化	増加	横ばい	減少	判 定 の 説 明	難病患者は増加傾向にあり、日常生活に関する相談・支援・交流などへのニーズは多様化しており、相談者の視点に立った相談体制の充実が求められている。 このため、難病患者に対する地域医療をより円滑に行えるよう、平成21年6月から難病医療連絡協議会に専門家(医師)を配置し、かかりつけ医に対する医学的な助言・実地指導等を行う。				
	県の関与を見直す余地	余地なし	当面余地なし	余地あり						
	有効性を高める余地	余地なし	当面余地なし	余地あり						
	効率性を高める余地	余地なし	当面余地なし	余地あり						
課題の総括	・難病相談・支援センターに寄せられた患者からの相談等は年々増加し、またセンターだけで解決できない問題も多いことから、必要に応じて地域の医療機関や専門家等にすみやかに確実に引き継がれ、有効な対策がなされるよう、関係機関相互の連携をより強化することが求められている。									